

EPAハノイ便り

11月号

平成30年12月3日
ARCベトナム校発行

＊～＊ 閉講式 ＊～＊

12月2日の日本語能力試験受験を終え、1年にわたるEPAの研修も閉講となりました。今回は12月3日に行われた閉講式の候補者代表スピーチの一部を抜粋してご紹介します。

★看護師候補者代表

13組 ルオン・バン・ティン★

私が看護師になった理由は、父の病気です。私が高校生の時、父が咽頭がんにかかってしまいました。大好きな父が病気になってしまい、とても悲しかったです。父は、病気によって喉が痛み、つらそうにしていました。私は、父のために何かしてあげたいと思いました。何もできませんでした。自分を無力に感じました。

この経験があつてから、私は、看護師になることを決めました。父のように病気で苦しんでいる人たちの力になりたいと思ったからです。

このEPAプログラムについて初めて知ったとき、これは、日本の看護を学ぶいいチャンスだと思

いました。私たちベトナム人が日本の技術を学ぶことは、ベトナムの医療のためにも必要なことだと思い、EPAに参加することを決めました。

EPAでの日本語の勉強はとても大変でした。漢字はもちろんですが、私は、発音や会話も苦手でした。発音は、特に「つ」の音が難しかったです。会話では、場面や相手によって、話し方を変えなければならぬ事が難しく、なかなか上手になりませんでした。

そんな時、先生方はいつも私たちのために、熱心に教えてくださいました。そのおかげで、今は、日本語が理解できて、先生と日本語だけで話せるようになりました。

また、この研修で、日本語だけでなく、日本社会や日本文化を学びました。そして、自律的に学ぶことを、アークアカデミーの先生方は教えてくださいました。

この一年間、大変なこともありましたが、EPAに参加できたことは、私にとって貴重なチャンスだったと思います。

これから、私たちは日本で看護師として働きます。この研修で学んだことを生かし、立派な看護師になりたいと思っています。そして必ず国家試験に合格したいと思っています。

ご清聴、誠にありがとうございました。



先生と一緒に毎日たくさん練習し、当日は看護師候補者代表として堂々とスピーチをすることができました。

★介護士候補者代表

15組 チュオン・ティ・ティン★

こちらにいる間、熱心な先生方に教えていただき、本日無事に研修を修了できることを、心より嬉しく思っております。

私は、日本語を勉強する前に、日本語は世界で3番目に難しい言語だ、と聞いたことがありました。日本語の勉強を始めてから、それは本当だと感じました。日本語は、ベトナム語とは文字も発音も全く

違います。何度練習しても上手に話せなくて、何度も諦めたい、と思いました。しかし、そんな時に、先生方が優しく「一緒に頑張りましょう」と励ましてくださったり、親切にわかりやすく説明して下さったりしました。それで、私たちはみんな、毎日少しずつ頑張ることができました。

実は、私はEPAプログラムに参加するまでは、時間をきちんと守る習慣がありませんでした。EPAプログラムが始まったばかりの頃、授業に遅れて行ってしまったことがあります。その時は、2、3分遅れることは大したことではない、と思っていました。しかし、先生から厳しく注意され、日本では時間を守らないと、人から信用されなくなることを教わりました。それで、私は時間をきちんと守ることの大切さがわかりました。それからはいつも、5分前行動をすることを心掛けるようになりました。その他にも、EPAプログラムで、目標を達成するために計画を立て、計画に沿って学習することや、時間を上手に使うって効率的に勉強することといった、いい習慣がたくさん身につきました。

このEPAプログラムでは、日本の大学から教授の方々がわざわざベトナムにお越しになり、介護の専門技術を教えてくださいました。そして、ベトナムの介護施設見学を通じて、介護の現場を知り、実際に仕事を体験しました。介護の専門授業を通して、介護士の仕事は、大変だけれど、人の役に立てる仕

事だ、と分かりました。人の役に立つ仕事ができることは、とても嬉しいことです。私は、利用者さんを熱心にお世話して、利用者さんの気持ちがよく理解できる介護士になりたいです。

色々な事が学べるEPAプログラムに参加できることは、私たちにとって貴重なチャンスです。日本へ行ったら、ベトナムの代表として、一生懸命頑張らなければなりません。そして、必ず国家試験に合格できるよう、日本語の勉強も続けていくつもりです。

ご清聴ありがとうございました。



スピーチの練習と JLPT の勉強を両立しました。

